

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2171900067		
法人名	有限会社 東海ケア		
事業所名	グリーンホーム かさはら		
所在地	岐阜県多治見市笠原町4406-1		
自己評価作成日	平成25年9月10日	評価結果市町村受理日	平成25年11月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detai_2013_022_kani=true&amp;ij_gyosvoCd=2171900067-00&amp;PrEfCd=21&amp;VersiOnCd=022">http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detai_2013_022_kani=true&amp;ij_gyosvoCd=2171900067-00&amp;PrEfCd=21&amp;VersiOnCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成25年10月20日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

毎朝決まった時間に大広間に集合。  
ホーム独自で考え上げた、楽器を使ったり棒を使ったりした体操や歌などを行っている。  
利用者様達も、体調が悪くない限りは皆さん楽しんで出席されている。  
この大広間を利用し、ボランティアの方々にも来て頂き、その時は近所の方や同業の施設の方、障害施設の方などに声掛けし、一緒に楽しむ事もある。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

舞台つきの大広間を利用して、毎日利用者も職員も、大きい声で事業所の歌を歌い、体操をし、手づくりの道具を使って体を動かしながら、利用者の健康維持を第一に考えている事業所である。利用者はユニットごとにこだわらず、自由に移動しユニット間の交流も盛んである。運営推進会議には地域住民の参加が多く活発な意見交換や協力が得られている。近隣からの頂き物や職員手づくりの季節の野菜で調理された郷土料理は、利用者の評判がよい。雑談しながら利用者にてできる手仕事を探し一緒に楽しんでいる。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の引き継ぎ、ミーティングの時に必ず全員で理念を唱和し、いつも念頭において実践につなげている。	理念をパンフレットや目に付くところに掲示し、「介護の姿勢はよいか」「言葉使いはよいか」など引継ぎ時や会議の時に振り返り、利用者が安心して生活がおくれるよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のイベントに出かけたり、ホームのイベントに来て頂いたりし、交流している。	回覧板や区長さんから情報を得て、福祉祭りや防災訓練に参加している。浴衣を借りたり、古着や野菜などを貰ったりしている。舞台つきの大広間で障がい施設と交流している。地域の子ども会や老人会の行事、事業所の行事などに広間を利用し交流できるよう取り組んでいる。	舞台つきの大広間を地域住民に開放し有効的に活用することで、住民とふれあう機会を多くし、認知症の理解が得られることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	回覧板を通し、使用目的を説明し、古着やポロ布の回収を行い、ホームでの活動を理解して頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に会議を開き、ホームの活動状況を報告。委員会からは、質問、意見、地域の状況の説明を受け、イベント参加などのサービス向上に努めている。運営委員が参加し易い夜間時間に開催し、様々な意見がホームの運営に生かされている。	会議メンバーが参加しやすい夜間に開催している。地域住民の参加が多く活発な意見を事業所の運営に活かしている。しかし、家族の参加が少なく、会議録の報告がされていない。	家族会や行事の訪問時に会議内容を話し、本人・家族の参加をうながされたい。又会議内容を不参加の家族や職員にも報告されたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から防災害の折に救助協力を積極的に伝え、書面等でも協力関係を築くように取り組んでいる。	担当者とは書類を届けたり、利用者と一緒に相談に出掛けている。電話でも問い合わせ助言を得ている。利用者の実情についても相談しながら協力関係を築く努力をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修を受けた職員が発表し、ミーティング時に勉強している。 玄関を出ようとする人に対してチャイムは鳴るが施錠はされていない。又、外に出て行かれる利用者様には必ず職員が付き、20分程度の散歩をし、心の落ち着きを取り戻して頂いている。	身体拘束・虐待などの研修を受講し全職員はその弊害を周知し理解している。施錠せずチャイムで直ぐに察知し対応している。職員は利用者の行動を把握しており、希望に合わせて一緒に出掛けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止関連法の研修に参加し、全職員が習得し、見過ごされていないか常に注意をしている。		

グリーンホームかさはら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度は現在2名の方が利用されており、成年後見制度の内容や仕組み、支援方法など理解し、定期に研修に参加、情報を交換している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居希望者、家族と面談し、悩みや不安、疑問等を聞き、ホームでの支援等の説明を行い理解して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の方には意見、要望を聞き、運営推進会議でも話し合える機会を設けている。	家族が訪問された時に声をかけ、意見や要望を尋ねている。個別の要望にはその都度対応している。遠方の家族には、手紙で近況を知らせながら要望を尋ねている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者、管理者は常日頃身近にいて、どんな些細な問題でも相談に乗り、職員が働き易い様努力している。	管理者はいつでも聞く姿勢がある。シフトの変更・在庫・物品の置き場所など、その時々々の相談に対応している。行事についても管理者や職員の提案で意見交換しながら、実施につなげている。自己評価は職員全員で取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に労働時間、勤務状況に無理のないように気付かっている。 個々に研修などを受講し、やりがい、向上心を高めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一人ひとりの力量を把握し、ベテラン職員がケアに当たり研修を受けることや、働きながら実践する事により育成に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	どこの施設も忙しくてなかなか交流を行う時間がないが、他の同業者の方と検討中。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の困っている事、不安な事、要望等に耳を傾ける事はもちろん、本人のこれまでの生活情報を得てコミュニケーションを取り、関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	どんな些細なことでも要望に耳を傾け、家族の方の不安を理解し、よく話し合う事で関係を深めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族と話し合い、必要とする支援を導き、その上でサービス利用を検討。 本人、家族に説明、納得して頂けるよう対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、本人を「目上の人に対する尊厳の意」をもって接している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とは蜜にコミュニケーションを計り、家族との接する機会を支援し、家族との関係を気付いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	住み慣れた自宅を見に行ったり、馴染みの美容院に行く支援をしている。 利用者の友人をホームに招き、馴染みの関係が途切れない様に努力している。	テレビを見ながら、ドライブしながら、雑談の中での一言から把握し、馴染みの場所に出掛けている。友人・孫などが訪問した時は職員は笑顔で迎え、声かけしながら関係が途切れないよう支援している。紙すきの年賀状を作り家族に送ることを継続している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりが孤立しないように、自室で過ごす時間を少なくし、お互いに会話ができるよう支援している。		

グリーンホームかさほら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	パイプとしてケアマネージャーさんとの情報交換や、家族との連絡、又、本人へ直接訪問する等、関係を継続し支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様がつぶやく言葉や仕草を見逃さず、気付きノートに記録し、傾聴ボランティアとの会話の中など、様々な場面で意向を把握する努力をしている。	日常の会話や昔話をしながら、テレビを見ていてふと出た言葉などを、担当者報告メモで記録している。ビールが飲みたい、花を植えたいなど希望を実現している。訪問マッサージの希望もかなえている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との会話、又、利用者様同士の会話の中から、生活歴、馴染みのある暮らしを聞き、家族からも本人の情報を得るよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員一人ひとりが本人と接する中で、心身の状態や、本人の出せる能力を把握し、観察に努め、過ごし易い環境を提供している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	常に職員同士話し合い、より良い介護計画にする為、家族、本人、主治医等の意見を反映し作成している。	生活リズムパターンシートを活用し、個々の状態把握に努めている。毎日の担当者報告メモを参考に、会議で話し合い、本人・家族の意向や協力医の意見を取り入れ適切な計画となるよう作成している。状態の変化時には見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個別記録を記入し、申し送り(朝、夕)時職員間で情報を共有し、又、出勤時には必ず気付きノートを読み、読んだらサインをすることにより様子を把握し実践に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の希望により、訪問マッサージを続けられるよう対応している。		

グリーンホームかさほら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	最近は出来ていない様に思われるので、以前の様に図書館の利用など出来るようにし、楽しんで頂きたいと思います。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の協力医の往診と、緊急時はいつでも指示が得られる関係であり、歯科医の往診もある。入居前からのかかりつけ医での受診も支援し、家族が付き添えない時は職員が同行している。	入居時はかかりつけ医を受診していたが、家族からの意向で協力医に変更した利用者もいる。緊急時や耳鼻科・婦人科には職員が同行受診している。管理者が医師と連携しながら、結果や現状を家族に報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	全職員で小さな異常に気づき、月2回の訪問診療時には「前もって何を主治医に聴くか」を良く把握している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくり	利用者様が入院した際、管理者は時間の許す限り利用者を見舞い、病院関係者と密に情報を交換をし、早期退院に向けた支援方法に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際にご家族と話し合いをしますが、重度化して来た時には再度話し合いをし、理解を得るよう説明し方針を共有し支援をする。	契約時に事業所の方針を説明している。摂食状態を目安に医師・家族と話し合いながら対応している。協力医とは常に連絡し指示を受けられる体制にある。職員全員は緊急対応時の研修を受けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様の急変、事故発生時に備えて職員は、定期的に応急手当や初期対応の訓練を受け実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時には避難場所、連絡方法など良く見える所に貼り紙がしてあり、地域との協力要請体制も築いている。	夜間想定した避難訓練や水害時避難訓練を地域の協力を得て実施している。避難用滑り台や階段昇降機を使用し、利用者の意見を聞いて話し合っている。毎年区長と地域連携契約書を取り交わし協力関係を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は日頃から同じ目線での声掛けで対応している。トイレ誘導の場合も手招きしたり、耳元でそっと声掛けするなど個々に合わせた対応をしている。	利用者に指示したり、制止したり、命令的な言葉にならないよう常に注意し、一人ひとりの人格・誇りを大切にしている。トイレ・入浴の誘導など羞恥心を損なわない対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎朝体操をしているが、本人がやりたくない時は本人の思いを尊重し自己決定している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	手芸をする人、会話を楽しむ人、テレビを観る人、眠っている人、一人ひとりが自分のペースを過ごされている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様の好みの服、季節に合った服装をして頂き、又、スカーフ、ネックレス等のおしゃれも出来ています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好きな食べ物を献立に取り入れたりしている。又、テーブル拭き、食器の片付け等出来る事を支援している。	利用者の好みを取り入れ、ユニットごとに職員が偏らない献立を立てている。職員も一緒に食卓を囲み、優しく声かけ、見守りながら介助している。彩りを考えた盛り付けで目で楽しむことを工夫している。後片付けも利用者にして出来ることを一緒にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとり状態に応じ、刻み食、お粥の人等食べられる分量が異なりますが、一日を通し確保出来るように支援している。特に水分は気をつけており、食事量、水分量は日誌に記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自主的な歯磨き、口ゆすぎ、入れ歯の旋錠洗浄等、口腔ケアの介助をしている。		

グリーンホームかさほら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排便は朝決まった時間にトイレ誘導、排尿は時間を見計らって誘導。その人に合わせて布パンツ、リハビリパンツ、パット等の使用をしている。生活リズムパターンシートで個々の排泄パターンを把握しトイレ誘導している。夜間も1時間毎に巡回し、安眠を妨げない配慮をトイレ誘導をしている。	利用者の排泄パターンを把握し適切な誘導で、パットが汚れなくなり、布パンツになった利用者もある。トイレで排泄できるような声かけで、おむつ使用を減らし自立に繋げる支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の工夫、運動の働きかけ等、予防に取り組んでいる。 頑固な便秘の利用者様には下剤を服用するなどし、予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望に合わせて、入浴の好きな方には極力毎日入浴してもらう。	入浴日を決めているが、希望があれば毎日でも入浴している。一番風呂を楽しむ人、入浴剤を入れて匂いを楽しむ人、足浴を好む人一人ひとりに合わせて対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	天気の良い日は屋外の空気に触れ、草取り等少し体も動かして、夜間の睡眠につながる様にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の服用には特に注意をして、2名以上で確認すると共に、副作用については体調の変化を見逃す事なく、職員間での話し合い、主治医にも相談するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーション等で気分転換を支援している。誕生日には本人の希望を聞き、外出したり、食事を楽しんで頂いたりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブ、花見、紅葉狩り等季節に応じ出かけている。又、ご家族が食事や喫茶店などに連れて行って下さる事もある。 誕生日会として担当職員が利用者様と外食をし希望に沿うよう、半日楽しい時間を過ごしている。	外出は年間計画にあわせ季節の花を見に行くことを楽しんでいる。地域行事や外出先など利用者と話し合いながら楽しくなるよう取り組んでいる。誕生日は本人・職員と1対1で計画し外出をしている。その日の天候にあわせ車椅子の利用者も一緒に散歩している。	



グリーンホームかさほら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小額であれば、自分の財布又は事務所で預かりし、必要に応じて確認しながら出し入れを行なえる様支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じていつでも電話出来るよう支援している。年賀状は利用者様に書いて頂き送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広い空間で過ごして頂いており、光、温度も心地よい状態を常に配慮し、季節感も取入れ、手作り小物、絵、生花等を飾り工夫している。	手作りの作品で季節を表している。広い居間のソファ、廊下のひと休みできる長椅子は利用者が落ちつける場所となっている。中庭を通ってユニットの行き来をしたり、ウッドデッキで洗濯物を干したり、花づくりをしたり、お茶の時間など自由に過ごすことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席、ソファ席、廊下には長椅子もあり、常に自由に居場所を選べるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使っていたタンス、家族の写真、好みの装飾品、位牌等を部屋に置き、今まで過ごして来た家の様に居心地よく安心して過ごしてもらえるよう工夫している。	自宅から使い慣れたベットを持参している。布団をきれいに畳み、洋服を衣装かけにかけ、居心地よく過ごせるよう職員と一緒に工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯物を干したり、畳んだり、植物の水やり等、一人ひとりの出来る事を見守りの中で、自立した生活を送れる様工夫している。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171900067		
法人名	有限会社 東海ケア		
事業所名	グリーンホーム かさはら		
所在地	岐阜県多治見市笠原町4406-1		
自己評価作成日	平成25年9月10日	評価結果市町村受理日	平成25年11月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detai_1_2013_022_kani=true&amp;ji_gyosyoCd=2171900067-00&amp;PrEfCd=21&amp;Versi.onCd=022">http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detai_1_2013_022_kani=true&amp;ji_gyosyoCd=2171900067-00&amp;PrEfCd=21&amp;Versi.onCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成25年10月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>毎朝決まった時間に大広間に集合。 ホーム独自で考え上げた、楽器を使ったり棒を使ったりした体操や歌などを行っている。 利用者様達も、体調が悪くない限りは皆さん楽しんで出席されている。 この大広間を利用し、ボランティアの方々にも来て頂き、その時は近所の方や同業の施設の方、障害施設の方などに声掛けし、一緒に楽しむ事もある。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p> </p>
----------

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の引き継ぎ、ミーティングの時に必ず全員で理念を唱和し、いつも念頭において実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のイベントに出かけたり、ホームのイベントに来て頂いたりし、交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	回覧板を通し、使用目的を説明し、古着やポロ布の回収を行い、ホームでの活動を理解して頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に会議を開き、ホームの活動状況を報告。委員会からは、質問、意見、地域の状況の説明を受け、イベント参加などのサービス向上に努めている。運営委員が参加し易い夜間時間に開催し、様々な意見がホームの運営に生かされている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から防災害の折に救助協力を積極的に伝え、書面等でも協力関係を築くように取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修を受けた職員が発表し、ミーティング時に勉強している。 玄関を出ようとする人に対してチャイムは鳴るが施錠はされていない。又、外に出て行かれる利用者様には必ず職員が付き、20分程度の散歩をし、心の落ち着きを取り戻して頂いている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止関連法の研修に参加し、全職員が習得し、見過ごされていないか常に注意をしている。		

グリーンホームかさほら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度は現在2名の方が利用されており、成年後見制度の内容や仕組み、支援方法など理解し、定期に研修に参加、情報を交換している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居希望者、家族と面談し、悩みや不安、疑問等を聞き、ホームでの支援等の説明を行い理解して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の方には意見、要望を聞き、運営推進会議でも話し合える機会を設けている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者、管理者は常日頃身近にいて、どんな些細な問題でも相談に乗り、職員が働き易い様努力している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に労働時間、勤務状況に無理のないように気付かっている。 個々に研修などを受講し、やりがい、向上心を高めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一人ひとりの力量を把握し、ベテラン職員がケアに当たり研修を受けることや、働きながら実践する事により育成に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	どこの施設も忙しくてなかなか交流を行う時間がないが、他の同業者の方と検討中。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の困っている事、不安な事、要望等に耳を傾ける事はもちろん、本人のこれまでの生活情報を得てコミュニケーションを取り、関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	どんな些細なことでも要望に耳を傾け、家族の方の不安を理解し、よく話し合う事で関係を深めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族と話し合い、必要とする支援を導き、その上でサービス利用を検討。 本人、家族に説明、納得して頂けるよう対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、本人を「目上の人に対する尊厳の意」をもって接している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とは蜜にコミュニケーションを計り、家族との接する機会を支援し、家族との関係を気付いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	住み慣れた自宅を見に行ったり、馴染みの美容院に行く支援をしている。 利用者の友人をホームに招き、馴染みの関係が途切れない様に努力している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりが孤立しないように、自室で過ごす時間を少なくし、お互いに会話ができるよう支援している。		

グリーンホームかさほら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	パイプとしてケアマネージャーさんとの情報交換や、家族との連絡、又、本人へ直接訪問する等、関係を継続し支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様がつぶやく言葉や仕草を見逃さず、気付きノートに記録し、傾聴ボランティアとの会話の中など、様々な場面で意向を把握する努力をしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との会話、又、利用者様同士の会話の中から、生活歴、馴染みのある暮らしを聞き、家族からも本人の情報を得よう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員一人ひとりが本人と接する中で、心身の状態や、本人のさせる能力を把握し、観察に努め、過ごし易い環境を提供している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	常に職員同士話し合い、より良い介護計画にする為、家族、本人、主治医等の意見を反映し作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個別記録を記入し、申し送り(朝、夕)時職員間で情報を共有し、又、出勤時には必ず気付きノートを読み、読んだらサインをすることにより様子を把握し実践に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の希望により、訪問マッサージを続けられるよう対応している。		

グリーンホームかさほら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	最近は出来ていない様に思われるので、以前の様に図書館の利用など出来るようにし、楽しんで頂きたいと思います。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の協力医の往診と、緊急時はいつでも指示が得られる関係であり、歯科医の往診もある。入居前からのかかりつけ医での受診も支援し、家族が付き添えない時は職員が同行している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	全職員で小さな異常に気づき、月2回の訪問診療時には「前もって何を主治医に聴くか」を良く把握している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が入院した際、管理者は時間の許す限り利用者を見舞い、病院関係者と密に情報を交換をし、早期退院に向けた支援方法に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際にご家族と話し合いをしますが、重度化して来た時には再度話し合いをし、理解を得るよう説明し方針を共有し支援をする。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様の急変、事故発生時に備えて職員は、定期的に応急手当や初期対応の訓練を受け実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時には避難場所、連絡方法など良く見える所に貼り紙がしてあり、地域との協力要請体制も築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は日頃から同じ目線での声掛けで対応している。トイレ誘導の場合も手招きしたり、耳元でそっと声掛けするなど個々に合わせた対応をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎朝体操をしているが、本人がやりたくない時は本人の思いを尊重し自己決定している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	手芸をする人、会話を楽しむ人、テレビを観る人、眠っている人、一人ひとりが自分のペースを過ごされている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様の好みの服、季節に合った服装をして頂き、又、スカーフ、ネックレス等のおしゃれも出来ています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好きな食べ物を献立に取り入れたりしている。又、テーブル拭き、食器の片付け等出来る事を支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとり状態に応じ、刻み食、お粥の人等食べられる分量が異なりますが、一日を通し確保出来るように支援している。特に水分は気をつけており、食事量、水分量は日誌に記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自主的な歯磨き、口ゆすぎ、入れ歯の旋錠洗浄等、口腔ケアの介助をしている。		



グリーンホームかさほら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排便は朝決まった時間にトイレ誘導、排尿は時間を見計らって誘導。その人に合わせて布パンツ、リハビリパンツ、パット等の使用をしている。生活リズムパターンシートで個々の排泄パターンを把握しトイレ誘導している。夜間も1時間毎に巡回し、安眠を妨げない配慮をしトイレ誘導をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の工夫、運動の働きかけ等、予防に取り組んでいる。 頑固な便秘の利用者様には下剤を服用するなどし、予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望に合わせて、入浴の好きな方には極力毎日入浴してもらう。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	天気の良い日は屋外の空気に触れ、草取り等少し体も動かして、夜間の睡眠につながる様にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の服用には特に注意をして、2名以上で確認すると共に、副作用については体調の変化を見逃す事なく、職員間での話し合い、主治医にも相談するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーション等で気分転換を支援している。誕生日には本人の希望を聞き、外出したり、食事を楽しんで頂いたりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブ、花見、紅葉狩り等季節に応じ出かけている。又、ご家族が食事や喫茶店などに連れて行って下さる事もある。 誕生会として担当職員が利用者様と外食をし希望に沿うよう、半日楽しい時間を過ごしている。		

グリーンホームかさほら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小額であれば、自分の財布又は事務所でお預かりし、必要に応じて確認しながら出し入れを行なえる様支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じていつでも電話出来るよう支援している。年賀状は利用者様に書いて頂き送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広い空間で過ごして頂いており、光、温度も心地よい状態を常に配慮し、季節感も取入れ、手作り小物、絵、生花等を飾り工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席、ソファー席、廊下には長椅子もあり、常に自由に居場所を選べるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使っていたタンス、家族の写真、好みの装飾品、位牌等を部屋に置き、今まで過ごして来た家の様に居心地よく安心して過ごしてもらえるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯物を干したり、畳んだり、植物の水やり等、一人ひとりの出来る事を見守りの中で、自立した生活を送れる様工夫している。		